

黒松と共に歩む村の物語

今月の表紙



毎年リジエネプロジェクトに参加している小学3年生のお二人。「村のために松を植えられてうれしかったです」と植樹体験の感想を話してくれました。

日常に溶け込む村の木「黒松」

皆さんは「東海村の木」が何か知っていますか。正解は「黒松」です。海岸線をはじめ、村内の至る所で目にする黒松は、村発足25周年を記念して、昭和55年に村の木として制定されました。

村の木「黒松」は、村内各所で目にすることができます。例えば、カフェやほっとも屋さんの商品ロゴマーク、小中学校の校歌やお店の壁面、塗り絵など、日常のあらゆるシーンで見ることが出来ます。このように幅広い場面で活用され、村の木にも選ばれている黒松ですが、この木が重要視されるのには特別な理由があるのです。

黒松が村を守る

かつての村松海岸は、砂丘が広がり、当時の人々は海から吹き付ける

株式会社テルズ
黒松を商品ロゴマークに使用。生産から加工まで自社で手掛け、甘味が凝縮されたほしいもを販売。



「紅はるか平干し」



カスミフードスクエア
舟石川店の壁面



村松小学校校歌より
一部抜粋
東の海の朝夕に
はるばる寄せてかえす波
松の緑のかわらない
誠もかたく身につけて
明日を望んでためみなく
わが足取りのたくましさ
努める村松小学校

潮風と砂の被害に苦しんでいました。飛砂の勢いはすさまじく、何日間も大風が吹き続けた結果、かつてのムラが砂に埋もれてしまった伝説「千々乱風伝説」もあるほどです。そこで、今から約100年前、村民が協力し合い試行錯誤を繰り返しながら、海岸沿いに黒松を植樹しました。塩害に強く、たくましく育つ黒松は、その大きな体で村民の暮らしを守ってきたのです。

今回の特集では、村の木「黒松」の過去を振り返るとともに、現在直面している松枯れの問題と、黒松を守るべく奮闘する人々に焦点を当て、黒松が村にとっていかに特別な存在であるか深堀りしていきます。



まつ食堂



NPO法人まつぼっくり

